

[講演要旨] 神社明細帳でみた南海トラフ地震

山中佳子(名古屋大学大学院環境学研究科)

§ 1. はじめに

これまで我々は東北地方太平洋沖の巨大地震に対しアスペリティ(地震時に大きく滑った領域)マップを作成してきた。2011年東北地方太平洋沖地震では、過去のM7クラスのアスペリティ分布とは異なり、これらM7のアスペリティを含む巨大なアスペリティの存在が指摘されている。そのため、南海トラフ巨大地震に対してもこれまで考えてきたような固有地震的な考え方ではなく多様性を考えるようになってきている。ところが、2011年東北地方太平洋沖地震の我々の解析では、巨大な1つのアスペリティではなく過去のM7クラスのアスペリティが連動すると共に、100年より長い間隔で発生する津波地震(明治三陸地震)や福島沖の地震(貞観地震)をも連動した地震であることがわかった。そこで将来の南海トラフ巨大地震を考える上で、過去に起こった巨大地震のアスペリティの場所を知ることが重要と考え、昭和と比較しながら過去の巨大地震のアスペリティの大まかな位置を検討することを目的とし、古文書を読んでみようと考えた。

古文書を用いたアスペリティの推定の場合、史料に対してそれほどの精度はいらぬが、震度や津波の高さだけでなく、地震のゆれ方の特徴、津波の到来時刻、到来方向、余震活動などさまざまな角度からの情報が必要である。そこでこれまでの研究にとらわれず、地域毎に史料を読んでいくことにした。まずその手始めとして神社明細帳を調べてみた。

§ 2. 神社明細帳

神社明細帳とは、明治12年内務省により各府県に命じられ作成されたもので、神社の鎮座地、社格、社名、祭神、由緒、例祭日、建物や境内の大きさなどが記載されている。今回調査したのは高知県、和歌山県、愛知県である。

高知県については高知県立図書館がすべて所蔵している。安芸郡6冊、香美郡8冊、長岡郡9冊、土佐群7冊、高知市1冊、吾川郡6冊、高岡郡14冊、幡多郡12冊からなる。

和歌山県については和歌山県立文書館と国文学研究資料館が所蔵している。

愛知県は愛知県公文書館および国文学研究資料館が所蔵する。

3県の神社明細帳を見て、由緒不詳の神社が多いが、津波に流されるなど大きな被害を被った場合には記載されているようである。ただしほとんどは津波被害である。時々地震による土砂災害によるものがあるが、揺れて壊れたというような記載は一つもない。ま

た被害を受けると修理や建直しを行うため棟札が残る。宝永や安政の棟札の場合、なんらか地震による被害を被った可能性も考えられるが、断定はできない。逆に古い文書が残っている神社は津波等の被害を受けていないと言えるかもしれない。

§ 3. 高知県神社明細帳

高知県神社明細帳は新収日本地震史料第3巻別巻P463から宝永地震に関する記載があった神社のみ載っている。

現在高知県太平洋側の市町村については調査済みである。今回の調査で、以下の神社については新収に載っていないことがわかった。

安芸郡安芸村 無格社 甲治神社
安芸郡田野村 無格社 神母神社
香美郡夜須村 郷社 八幡宮
高岡郡宇佐村馬詰 無格社 竈戸神社
高岡郡須崎町 無格社 蛭子神社
幡多郡三崎村 無格社 稻荷神社
幡多郡清水村 郷社 鹿島神社
幡多郡白田川村 無格社 西宮神社
幡多郡月灘村 村社 天満宮
幡多郡月灘村 村社 氷室天神社

また、高知県の神社では安政地震で津波の被害を受けたと書かれている神社は

高岡郡多ノ郷村 無格社 戸島神社
高岡郡与津村 無格社 熊野神社
幡多郡宿毛町 村社 天満宮

のみであった。地方史等を見ても高知県では宝永地震の被害が圧倒的に大きく、安政地震の被害とはだいぶ違う。この違いは宝永地震が2つの安政地震の連動ということだけでは説明ができない。

§ 4. 和歌山県神社明細帳

和歌山県の海岸沿いにある神社で津波被害が記載されている神社ではほとんどが宝永地震で流され、さらに安政地震でも被害に遭っている。高知県の神社とは大きく違う。